

第147回 ECM Society

日時：2015年11月13日(金) 18:00-19:00

場所：総合診療棟5階 第5カンファレンスルーム

講師：武内 恒成 先生

愛知医科大学医学部生物学・細胞生物学教授



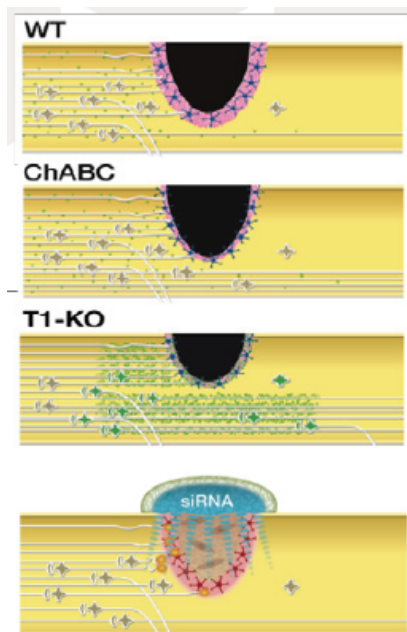
演題：糖鎖発現制御による中枢神経 発生と再生－脊髄損傷治療と応用可能性－

中枢神経系の発生や神経回路形成、さらにはこの回路が機能するための成熟過程には、コンドロイチン硫酸 (CS) およびヘパラン硫酸 (HS) プロテオグリカンが機能を果たしています。一方、脊髄損傷をはじめ中枢神経系が障害を受けた場合には、CS が大量発現して神経の再生をブロックします。つまり損傷後の神経再生医療のためには、これら糖鎖発現の制御も重要なテーマとなります。

そこで、武内先生はこれら CS や HS などの糖鎖がいかにして発現制御されているのかを探ることで神経再生治療へ生かすこと、さらには神経発生の理解を進めることを目標としています。CS 合成酵素の一つ ChGalNAcT1 ノックアウトマウスや様々な分子のノックダウン解析からも発現制御を研究すること、さらには神経回路形成および成熟メカニズムのイメージング解析を試みておられます。武内先生のご専門の細胞生物学・神経発生学とから、新しい切り口で糖鎖生物学をとらえることを目指しておられます。

当日は、大変面白い話にご期待ください。個人的にお話をされたい方は、御連絡下さい。

連絡先：分子医化学 大橋 俊孝 (7127, oohashi@cc)



CS 糖鎖発現制御による脊髄損傷後修復の例

参考文献

Chondroitin sulphate N-acetylgalactosaminyl-transferase-1 inhibits recovery from neural injury. Takeuchi K, Yoshioka N, Higa Onaga S, Watanabe Y, Miyata S, Wada Y, Kudo C, Okada M, Ohko K, Oda K, Sato T, Yokoyama M, Matsushita N, Nakamura M, Okano H, Sakimura K, Kawano H, Kitagawa H, Igarashi M. **Nat Commun.** 2013; 4:2740.

この特別講義は、博士課程授業科目の「研究方法論(基礎・応用)の授業に出席したとみなされる講演会」としてカウントすることが可能です。“授業とみなす講演会出席記録簿”を持参して、開催担当教授の印を受けて下さい。